

よみがえれ！  
有明訴訟弁護団  
(後藤富和)発行  
092-894-1781  
090-9602-0700

# 麻生 回答拒否 有明海再生公開質問

## そんな時間ない

よみがえれ！有明訴訟原告団・弁護団は、9月16日、5人の自民党総裁候補に対して、有明海の再生に関する公開質問状を送った。翌17日には、有明海の漁業者が上京、各候補の議員会館事務所を訪問し、回答を念押しした。

その回答期限が9月18日であったところ、小池百合子候補及び与謝野馨候補の2名から回答があった。

他の3名に関しては、麻生太郎候補は「そんな時間はない」との理由で明確に回答を拒否した。石破候補、石原候補については何らの連絡もなかった。

麻生氏は、福岡県選出で、有明海の再生は、いわば地元の問題でもある。しかも、自民党の幹事長を務めている以上、今年6月27日の佐賀地裁の開門判決以降の国の控訴、農相の開門調査アセス談話などの一連の動きについて当然把握しているべきで、かつ、将来の首相を目指す以上、有明海沿岸の混乱状況についてどのように対処

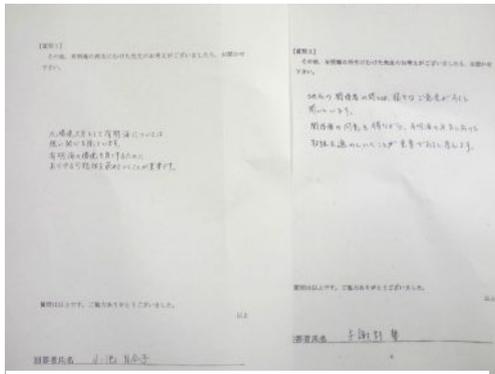
していくのか一定の方針を持っているのが当然である。

それにもかかわらず「そんな時間はない」と質問内容を確認することもなく回答を拒否する麻生陣営の姿勢に対し、有明海沿岸漁業者たちは、漁業者達の気持ちを踏みにじるものだと強い憤りを隠せないでいる。

## 石破・石原 無回答

今年6月27日、佐賀地方裁判所は国に諫早湾干拓潮受堤防排水門の開放を命じた。この判決について、有明海沿岸の佐賀県、福岡県、熊本県の各知事、各県議会が支持し開門を求めた。それにもかかわらず、福田内閣は開門を不服として控訴したが、他方で、若林農水大臣(当時)は、開門調査にむけたアセスを実施すると談話を発表した。一方において開門に反対しているながら他方で開門アセスを実施するというのは、政府として、開門をすべきと考えているのか、それとも開門をしない結論を導くためのアセスを行う考えなのか、二枚舌政策といわざるを得ず、有明海沿岸の漁業

者・農業者を混乱させている。麻生氏らの姿勢は、福田内閣が招いた混乱状況に背を向け直視しないものであり、その政治姿勢には疑問を感じざるを得ない。



小池・与謝野氏からは直筆のFAXが

## 小池 開門前向き

小池百合子候補からは直筆で以下の回答があった。

【質問1】排水門の開放について「開放すべきと考えるが、開門した際の環境影響を考える必要がある。ただしその手続はスピーディーに行うべきだ。」

【質問2】農水大臣談話のアセスの実施について

「法律上の環境アセスにはあたるが、アセスの実施についてはこれまでであるデータを利用して速やかに行うべきと考える。」

## 【質問3】自由意見

「元環境大臣として有明海については強い関心を持っています。有明海の環境を良くするためには、あらゆる可能性を求めていくことが重要です。」

この回答について、漁業者らは基本的に排水門を開放すべきと考えている点、そしてスピーディーな手続を求めている点で有明海の再生に関し前向きな姿勢がうかがえると評価している。

## 与謝野 有明海再生言及も開門触れず

与謝野馨候補からも直筆で以下の回答があった。

「地元の関係者の間には様々なご意見があると聞いています。関係者の同意を得ながら有明海の再生に向けた取り組みを進めていくことが重要であると考えます。」

この回答について、漁業者らは、有明海再生の重要性を認識している点は高く評価できるとする一方、開門について言及していないことで、開門によらない補助事業などの対症的再生策に終わる危険性があり、また関係者として長崎県知事等の同意を要すること事実上開門不能状態に陥りかねないと懸念を示す声も聞かれた。